

# 奄美地域に適したディジットグラス「トランスバーラ」

永年利用のローズグラスの代替となる暖地型牧草として利用が可能

## 背景・目的

- ・ 肉用牛の飼養頭数が増加傾向にある奄美地域では、永年利用のローズグラスの栽培が多いが、3年以上放置された栽培圃場では雑草が繁茂し収量が低下
- ・ このため、徳之島等で栽培面積が拡大してきているディジットグラス「トランスバーラ」をローズグラスの代替作物として適応性を調査

## 成果の内容

### ディジットグラス「トランスバーラ」の特徴

- ・ 細茎のほふく型で、永続的に密集し、雑草を寄せ付けない
- ・ 乾物収量は、単年利用のローズグラスと同程度
- ・ 粗たんぱく質含量は、ローズグラスと同程度であり、輸入乾草チモシーより高い

植付  
15年目

### 栽培特性

項目	草丈 (cm)	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)
トランスバーラ <sup>1)</sup>	30~50	1,506~2,320	339~560
ローズグラス <sup>2)</sup>	102	1,263	316

注1) 徳之島で2年以上利用の圃場での調査結果 (26圃場)

2) 与論町で単年利用の3か年 (2017-2019) の平均 (1圃場)

### 飼料成分

項目	CP (%)	EE (%)	NFE <sup>1)</sup> (%)	CF (%)	CA (%)	ADFom (%)	NDFom (%)	TDN <sup>2)</sup> (%)
トランスバーラ	9.0	2.2	46.9	33.6	8.1	39.3	67.2	56.0
ローズグラス <sup>3)</sup>	9.7	2.3	42.1	31.7	13.5	36.2	67.1	60.9
チモシー (輸入乾草) <sup>4)</sup>	7.6	2.1	49.2	34.3	6.7	37.9	66.6	54.4

注1) NFE=100-CP-EE-CF-CA 2) TDN=94.2-0.971×ADFom

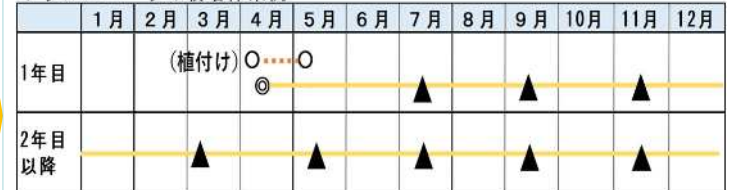
3) ローズグラスは過去10年間に畜産試験場で分析した値 4) チモシーは日本標準飼料成分表値



## 期待される効果

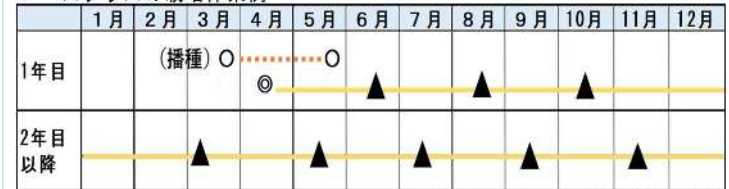
◎永年性に優れ、3年以上経過した圃場でも安定した収量確保

トランスバーラの栽培体系列



※苗の植付後、発根まで土壌を乾燥させないために梅雨前の植付が理想

ローズグラスの栽培体系列



○: 播種(植付け) ◎: 播種適期 ▲: 収穫

◎定着後は、永年利用のローズグラスと同様に年4~5回の収穫が可能

○普及対象・範囲

奄美地域の肉用牛農家

鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場  
企画環境飼料部草地飼料研究室 (R05)